

常設展

図書館資料と保存



開催期間 平成25年11月7日(木)～26日(火)



図書館における資料保存とは、資料を「いつでも」「だれにでも」そして、「いつまでも」利用できるようにしておくこと。あらゆる資料を現在と将来にわたって保証していくことで、今以上に利用の可能性を高める諸活動を意味するものです。「保存」と「利用」という、ともすれば相反する2つの命題を抱え、私たちは様々な対応をしています。

不適正な温湿度、大気中の有害な化学物質、不適切な製本や補修・取扱い、虫やカビなど、資料劣化の要因には様々ありますが、こうした劣化を防ぎ、資料を防ぐための方策にも様々なものがあります。例えば、保存環境を整える、保存箱に入れる、マイクロフィルムを作成する、資料を適切に取り扱う、などといった方法です。

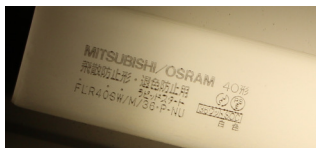
今回の展示では当館で日々おこなっている資料保存対策の一部をご紹介します。

【資料保存のための対策】（一部）

＜1. 保存環境の整備＞



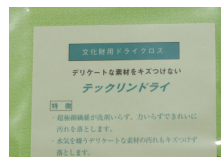
温湿度計



紫外線カット蛍光灯

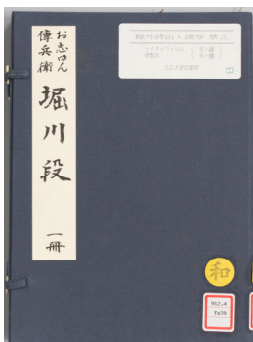


アルコール消毒液



テックリンドライ

＜2. 保存箱に入れる＞



秩



桐箱



中性紙箱

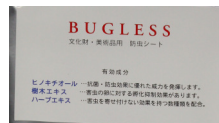
＜3. 資料に負担をかけない展示＞



展示台



ブックマット



防虫剤



調湿剤

＜4. 代替メディアへの変換＞



マイクロフィルム

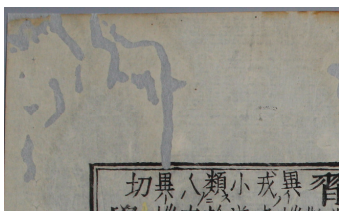


4×5 フィルム

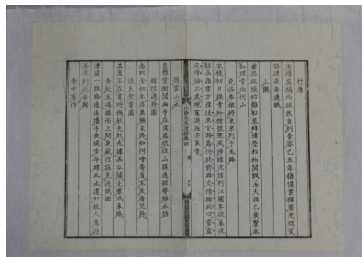


DVD

＜5. 資料の修復＞



部分裏打ち



総裏打ち